

臺灣總督府
臨時情報部

報部

昭和十四年九月十日第三種郵便物認可
昭和十四年七月一日發行 (毎月一日、十一日、廿一日發行)



臺灣司法事務狀況言上に就て
(高等法院檢察官長)
聖戰二周年 南支に於ける協力狀況
(臨時南支調査局)
臺灣米穀移出管理に就て
(米穀局)
汕頭攻略の意義
(臨時情報部)
三民主義と支那民衆思想
(臨時情報部)

七月上旬號

(第六十六號)

聖戰第二周年



南支の空
晴れ渡る

新東亞の胎動に取残されて来た汕頭に皇軍の無血上陸の成功を見たのも、支那民衆の此の日を如何に待望してゐたりしか

窺ひ知られる。「民衆よ、安心せよ、日本軍は民衆の生命財産を保障す。」と空中より撒布せし我が海軍を携へて逸早く皇軍を歓迎し、我が宣撫班に協力してゐるのも聖戦ならではみられぬ。飽くまでも東亞人の東亞の建設であり、飽く迄も東亞人の真切者、英ソ依存の蔣政権のみを膺懲するのが今次聖戦の嚴然たる目的だ。

南支に於ける唯一の海上援蔣ルートも、昨日の夢と過ぎ去り相思樹の縁と紺碧の海に包まれた白亜の汕頭は、日章旗と五色旗の交叉にて更生の喜びにみち、この地を多く故郷に持つ南洋華僑にも吉報が飛んでゆく。

殊に一衣帯水にある臺灣の喜びは又一入だ。

歡呼の旗の波は皇軍への感謝であり、兄弟に還りたる喜びである。(寫眞は臺北に於ける祝賀旗行列)

臺灣司法事務狀況言上に就て

高等法院檢察官長 古山春司郎

司法長官會議は毎年五月頃に司法省に於て開催致されます、會同員は其の會期中に於きまして一日畏くも御陪食の光榮に浴し更に別殿に於きまして拜謁を仰せ付けられますが、其の拜謁に際しまして内地は大審院長及び檢察總長の兩名と七控訴院の院長若くは檢察官の内何れか一名又外地は朝鮮、臺灣及關東州の各高等法院の院長若くは檢察官長(朝鮮は檢察官)の内何れか一名が各其の管轄内の司法事務狀況に付言上致し且御下間に奉答致すのであります。本年の會議は五月十六日より二十日迄の五日間でありまして其の第一日の十六日に此の光榮に浴したのであります。此の日 天皇陛下に於かせられましたは側近の重臣を隨へさせられて出御遊ばされ、 閑院宮殿下御臨席、鹽野司法大臣侍立の下に先づ大審院長及び檢察總長以下各控訴院及び高等法院の院長檢察官又は檢察官長に一々拜謁仰せ付けられ、其の際此等司法部長官の言上する各地の司法事務狀況をつぶさに御聴きとり遊ばされ民草の治安狀態に深く、大御心を垂れさせ給ひ時局柄軍務、政務殊の外御多端にあらせられ給ふにも拘らせられず時の移るも御いとひなく長い間に互らせられ數々の有難き御下間を拜し奉り、其の外以上申述べました以外

の會同員百餘名の多數に對し拜謁仰せ付け給ひたる御事は洵に恐懼感激に堪へませんでした。臺灣の司法事務狀況に付きましては昨年は伴野高等法院長より言上致しましたので、本年は私に此の光榮に浴したのであります。私は臺灣の司法事務中特に犯罪の特異性と其の増減の理由等に就きまして歴史的事實に基き教育文化の進展及び諸法規制定改廢等の各方面より全力を盡して調査研究致しましたる結果を委曲言上致しました。然る處畏くも 天皇陛下に於かせられましては玉音一きは御高く「司法事務を通じて見たる内臺人の融和狀態はどうか」との御下間を拜し奉つたのであります。 天皇陛下に於かせられまして、我が臺灣の民草の上に常に大御心を注がせ給ひ是迄御仁慈の數々を垂れさせ給ひました御事は一々枚舉に追ないのであります。私は只今眼のあたり此の有難き御下間を拜し奉りましたので全く暫くの間はたゞ、恐懼感激にむせぶばかりでありました。私は本島民が領臺後四十餘年の間に教育文化の進展に伴ひ今日は其の大多數が全く日本國民たるの名譽と幸福を自覺し且其婚法施行以來法律上血と肉との緊密なる結合が認められ内地人と父母たり兄弟たるの親族關係に立つを誇とする様になり、殊に今回支那事變勃發以來一衣帶水の支那が混亂狀態を呈し居るに反し本島は全く治安が確保せられ眞に王道樂土たるに感謝感激し舉島一致和衷協力して或は銃後の護に精進し或は軍夫として戦線に奉公の誠を效し内臺人間に相剋摩擦を起すが如きことなく特に今次支那事變は本島人をして各方面より著しく皇民化を速進せしめましたので曩に取り残されて居りました處の日本民法中親族及び相続編の施行時期も迫りまして目下臺灣總督の命を受け之れが施行に付

銳意關係法規の立案を急ぎ居る事情に就きまして、謹んで奉答致しました處洵に恐懼の至に堪へぬ御事は、天皇陛下に於かせられましたは殊の外力強く御領を遊ばされたので私は其の有難き大御心に對し奉り全く感涙にむせぶ計りでありました。否私獨りではありません。此の言上の有様を始終見聞致して居りました會同員全部が左様であつたと思ひます。特に臺北地方法院の伊藤檢察官長は私が此の大任を果し元の位置に復歸致しますと直ちに私に對し頗る緊張せる態度を以て、天皇陛下に於かせられましたは臺灣の司法事務狀況に際しては殊の外大御心を注がせ給ひ御聽きとり遊ばされたる御様子に拜せられ洵に恐懼感激に堪へなかつたと申し互に暫く熱涙を禁ずることが出来なかつた次第でありました。

五百五十餘萬の島民諸君、私の如き微身のものが九重の雲深き大奥に於ていとも御麗はしき龍顔を拜し此の廣大無邊なる大御心を拜し奉つたのであります。光榮之に過ぐるものはありません。感激之に勝るものはありません。私は前に申上げました通り、本島の司法狀況を歴史的事實に従ひ各方面より調査致し領臺前と領臺後四十餘年の今日に至る迄の狀況を極めて明かに承知して居るのであります。殊に土匪の跳梁、蕃害の續發又は一般殺傷罪の頗る多かりし當時の狀態の如きは彷彿として眼前に表はれて來るのであります。夫れが一視同仁の聖旨に浴し諸般の文物制度燦然として面目を一新し今日の樂土安郷が築き上げられたる顛末を能く承知して居るのであります。而して此の皇恩の廣大無邊なるに感謝感激し又此の聖旨を奉體し臺灣統治に貢獻せられたる貴き先人の努力と犠牲に對し衷心より、景仰の念を禁ずること能はざる状態

に在つたのであります。此の時に當りまして御仁慈溢るゝ此の御下間を拜し奉つたのでありますから如何に感涙にむせんだかは御想像が付くと思ひます。各位も今心靜かに歴朝聖明の限りなき御恩澤に思を走せて戴き度い。而して本島の過去を偲び夫れと現在の幸福とを思ひ比べて見て戴き度い。其の氣持で今私が此の御下間を拜し奉りましたときの狀況を推察して見て下さい。聖慮いとも長く唯肅然として我が心に迫り感涙の禁じ難きものが存するであります。私は常に思ひます。日本國民の此の聖恩に對し奉る感謝感激の念慮が萬邦無比の日本精神の根源を爲すものであり、また之が發しては皇恩に報ひ奉る義勇奉公の行動となるのであると考へて居ります。我が國民は肇國以來皆此の皇恩の光被に依つて生長し以て今日に至つたもので我等の一切は此の皇恩に依つてのみ與へられたもので、一物として私個人のものではないのであります。故に自分勝手にすることは勿論出来ないのであります。大君に於かせられ御入用の場合には何時にても之等一切を捧げて御奉公致さなければならぬのであります。君に忠を盡すと云ふことは君より與へ給はりました處の我の存在を君の爲に捧げて働くと云ふことになるのであります。日本國民の中には誰一人として自分の身體とか財産とか、自分一個の專有物であるから自分の自由勝手にすることが出来るものであるなど、考へて居るものはないと確信致して居ります。我が國に於ける君臣の關係は吉田松陰などの言はれる通り、
人有五倫。而君臣父子爲尤大。故人所爲人。忠孝爲本
とか又

人君養民以續祖業。臣民忠君以繼父志。君臣一體。忠孝一致。是吾所以尊于萬國也。であるのであります。此の君臣一體忠孝一致が即ち親子の關係の様に絶對不離の關係より生ずるのであります。天上天下此の大御親を外にして他に親はないのであります。日本の君臣關係は主人と雇人との様に双方の存在が先づあつて、然る後に結び付けたと云ふ様な相對的關係ではなく先づ大君があらせられて、然る後に國民を生み給ふたので絶對不可分の親子關係と同様であるのであります。即ち國民は皆君恩に依りて産まれたのであります。大君に於かせられては産みの親心を以て民を育て養ひ教へ給ひて今日に至つて居るのであります。故に國民は、大君に於かせられて其の徳を八紘に光被せしめ給ふ爲に唯々勅の儘に働くのみであります。即ち國民は君徳顯現の爲に存するのであります。是れが我が國の君臣の關係であります。故に國民は常に君恩に感謝感激し之れに報ゆる爲に義勇奉公の誠を盡すのみであります。日本の歴史は御歴代が億兆の大御親として御仁愛の情を垂れさせ給ひましたる御事と國民が此の大御心に感謝感激して唯々此の御仁慈に報ひ奉る爲に盡したる至誠奉公の事跡のみに依つて充たされて居るのであります。

大伴家持は「大君の邊にこそ死なめ願ひはせじ」と歌ひ

楠公兄弟は七生滅賊を誓ひ

吉田松陰は

今我爲國死、死不背君親

悠々天地、威照在神明

と叫び

又梅田雲濱は

君か代を思ふ心の一筋に

我か身ありとは思はさりけり

と熱血を沸かして居ります。此の臣として君恩に報ひ奉る心が即ち日本國民の本分であり、また此の本分を盡すことが國民として久遠に生くる所以の道であります。我々の祖先は皆君恩に報ひ奉る爲に其の本分を盡すと云ふ大精神を發揮して來つたのであります。其の爲には假令肉體は此の世から失はれても其の大精神は永久に護國の神として生きて居るのであります。諸君私は今回畏くも内臺人融和状況に就き御軫念遊さる、聖旨を拜し奉つたのであります。私は右申述べました通りかしくみ奉答を致しましたが此の奉答の一事を以て責任を果したとは決して思つて居りません。私の責任は寧ろ是れからであります。私は身心の限りを盡し司法事務を通じて内臺人融和の大業を完成して萬遺憾なきを期し以て宸襟を安んじ聖恩の萬一に報ひ奉らむことを固く覺悟致し居る次第であります。旁々以て會同の歸途忠臣志士の發祥地として有名なる山口縣萩市に吉田松陰その他志士の古事を偲び以て奉公の義心に力強き一鞭を加へたのであります。島民諸君、諸君も此の廣大無邊なる皇恩に感謝感激し古を偲び今を思ひ眞に内臺一如の實を擧げ皇國の興隆進展に貢獻し以て御仁慈の聖旨に副ひ奉る様一段の努力と緊張とを御願して止まざる處であります。茲に謹で東天を拜し此の御話を終ります。

聖戦二周年 と本府の 南支に於ける協力状況

八

臨時南支調査局

はしがき

皇道宣布の聖戦も本年七月七日を以て滿二年を閲するが本島を基地とせる、海の荒鷲の渡洋爆撃に初まつて、南支に於ける制空制海權の把握下に昨年五月には厦門、十月に廣東、本年二月に海南島、六月に汕頭と南支の要衝は逐次皇軍の威武下に制壓され今や東亞新秩序建設の大理想は著々として實現されつゝある。本府に於ては南支攻略に即應して其の地理的・人文的特殊性を遺憾なく發揮して各般の調査を初め治安維持、交通、通信、放送施設、防疫醫療、情報宣傳、教化宣撫等頗る廣汎なる分野に亘つて、南支工作に協力し來つたのである。又此等復

雜多岐に亘る事務を統合せしむべく昨年八月四日臨時南支調査局を設置して陣容を整備したが、茲に記念すべき興亞聖戦第二週年を迎へるに際し、本府の南支に於ける諸協力状況を回顧するの意義深いことであらう。

一、厦門

昭和十三年五月十日海軍は厦門を占領した。一衣帯水の間に在る厦門は本島と極めて密接なる關係を有するのみならず、數百萬南洋華僑發祥の地として南支に於ける政治、經濟的地位は極めて重要である。皇軍上陸の報に接するや軍の要求に應じ本府は直に通譯及び警察官を派遣し、又本府水産試験船照南丸にコロンズに避難せる六

萬の窮民官撫の爲食糧を滿載現地に急行せしめた。之に續いて官民合同の大調査團を派遣し應急工作、即ち電氣水道・電信・電話・郵便等の復舊に協力した。

六月に入り、海軍、外務及本府の三當局は復興委員會を組成し、六月二十日厦門治安維持會が誕生した。九月十五日復興委員會に代つて海軍特務部最高指導機關となるに至るや、本府派遣の事務官以下各職員は海軍囑託たる外、治安維持會各部門の指導官として夫々重要な地位を占め施政に協力した次第である。爾來厦門の治安は維持され民衆も續々復歸し、市況の明瞭化顯著なるものがあり、本年三月には興亞院厦門連絡部が設置されるに至つた。之に順應して治安維持會も改組擴充され、七月一日遂に厦門特別市政府が樹立され、本府よりも二見警務局長を總督代理として又臺北、基隆、高雄各市、在臺華僑團體及び黨銀泰拓其他よりもまた代表を送り祝意を表した。

厦門に於ける今日迄の本府の協力状況を簡述すれば左の如くである。

(1) 交通通信施設

厦門攻略直後本府は海軍と協力大阪商船株式會社の對岸定期航路を直に復活せしめたが、本年三月三十一萬圓の豫算を以て専用碼頭の建設に着手せしめ今秋第二期工事竣成の曉には三千噸級汽船が横付可能となる計畫である。

又占領直後の郵政機能停止も本府通信職員により應急復舊され昨年七月一日支那側郵を入れる政局の厦門復歸許可後はこれが監督檢閲の任に引續き當つてゐる。現在郵便物取扱数は一日約八千通である。

電信に付ては昨年五月二十七日厦門本島間に無電連絡の假設備を行ひコロンズにも通信所を開設し一般外國電報を取扱ふこととし一日の發着數目下五百通内外である。更に本年四月一日よりは本府通信部に於て厦門海岸無線電信局を開設し航行中の船舶との間に無線電信の取扱を爲すことゝなつた。

電話については昨年五月厦門電話公司の建物及市内配線を利用し本府通信部から携行した單式交換機並に

磁石式電話機を以て交換事務を開始したが其後八月初厦門電話会社の交換機を以て共電式電話機に改め現在の加入者は約五百名弱である。尙厦門コロンス間電話線は昨年十二月開通を見た。

(2) 金融通貨工作

攻略直後臺灣銀行支店を再開せしめ之を帝國海軍に接收された厦門海關の關稅收入の寄託銀行とし厦門に於ける金融通貨工作を進展せしめつゝある。

(3) 公共事業

厦門の電氣水道並製氷等公共事業に關しては本府に於て應急修理をなした後株式會社福大公司に之を委任經營せしめたのであるが、日提携の實を擧ぐべく本年五月電氣水道製氷各獨立の日華合辦會社を組織せしめ之が經營を擔任せしめることとなつた。

(4) 物資供給

厦門に於ける電氣、水道、電信、電話、製氷並に郵務等諸施設の修理又は開設に要した諸機械器具並に材料は凡て本島より大阪商船航路により之を供給せる外

衣食住に關する必需品を各便船毎に供給した。

(5) 情報宣傳

事變發生以來本府は支那民衆をして遷れる國民政府の抗日宣傳より覺醒すべく、軍當局に協力して傳單を作成し、或は本島放送局よりラヂオに依り福建語乃至馬來語放送を實施し、在外公館を通じて適正なる情報を供給せる外日刊「厦門全閩新日報」華文並和文版を逸速く復歸せしめ、其の他宣傳パンフレット、繪葉書、映畫の製作配布を爲す等宜撫上遺漏なからしめた。

(6) 教育施設

昨年九月一日日人小學校並に旭瀛書院を再開した別に南支民衆の宜撫、相互事情の交換紹介、文化事業の助成を目的として

イ、共榮(日華)會館の建設。ロ、無料診療所の開設ハ、國語講習所。ニ、映畫供給。ホ、授産事業(種豚種禽養成種苗蔬菜飼料栽培等)の實施等有用なる基礎的文化建設に著々として努力してゐる。

(7) 醫療防疫施設

業を開始せしめた。又鐵道部職員を派遣して占領區域内の粵漢、廣九、廣三、諸鐵道の被害調査を爲した。

(2) 交通通信施設

無線通信器材短波送受信機並附屬品一式と之に必要な通信職員技術者を派遣した。郵政に關しては遞信部參事以下多數を現地に派遣監督檢閲に當らしめてゐる。

(3) 省營工場調査班の派遣

廣東に於ける各種省營工場中製紙、パルプ、製糖、セメント、清涼飲料等の各工場の復舊に關しては本府より調査班を派遣し技術的調査を完了しこの調査の結果東莞製糖工廠の經營は之を日本糖業聯合會に委託することとなり廣東市内外の原料甘蔗を消化することによつて、農民宜撫の目的をも達成すべく本年三月より操業を開始した。

(4) 軍調査班臨時調査員の派遣

南支派遣軍に於て調査班を編成し本府に對し臨時調査員の參加方要請があつたので南支調査局今川理事長を派遣した。

厦門攻略の前年秋より金門島には本府厦門博愛會醫院分診所を設けたのであるが昨年八月厦門に本院を復歸せしめた。専門家の垂涎する新築のコロンス分院の開設は暫く留保し物的整備に目下銳意活動し昭和十三年度に於ける取扱患者數入院一、五一九外來二、〇九四合計二、六一三名に上つてゐる。別に國產優良醫療用藥品機械の紹介を附帯施設として開始した次第である。

二、廣 東

昭和十三年十月二十二日廣東は神速果敢なる皇軍の進撃により一舉に攻略された。現地に於ては陸海外三省現地連絡會議が設置せられ一般民政事項を處理することとなり本府よりは西村顧問以下職員多數を派遣して之に協力せしめつゝあるが其の協力狀況は大體左の通りである。

(1) 應急復舊工事並被害調査

電氣水道施設に關しては應急復舊工事を實施し本年二月二十日臺灣拓殖株式會社に引繼がしめ四月一日より營

(5) 中山大學農場調查團の派遣

廣東中山大學農場は同校々地から白雲山の麓に及ぶ面積約一千町歩の廣大なる地域を占め農藝森林牧畜蠶桑の各部門を包括してゐるが本府は軍の依囑で今年一月殖産局技師以下の調査團を派遣し一箇月餘に亘り蓬萊米、麥類、生野菜、黃麻、牧草の栽培並養豚に關する周密なる調査を完了し計畫案を軍に提出した。尙右計畫案實行の爲二月本府は更に技師以下三十名を派遣し現地食糧調辨の主義に協力せしめた。

(6) 治安維持會顧問並警察職員の派遣

昨年十二月二十日廣東治安維持會成立するや軍の要望に依り本府に於ては民政顧問として、西村事務官を又特務機關並治安維持會委員として警察職員若干を派遣した西村事務官は其後治安維持會最高顧問に就任し明朗廣東の施政一新に邁進してゐる。

(7) 研究機關の内容整備

廣東に於ける文化學術研究機關の内容整備の爲軍の依囑により臺北帝國大學教授十數名を現地に派遣し資料の

散逸を防ぎ文化機關の整備に當らしめ本島が前進日本の文化基地たる事を證明した。

(8) 醫療防疫施設

廣東地方の占據に伴ひ軍の熱望により直に本府廣東博愛會醫院は十二月二十日應急開設せられ爾來逐次人的物的擴充を計り醫院經營防疫部設置の外廣東市内外の巡回診療に乘出し衛生方面に甚大の貢獻を爲しつつある。五月佛山及廣東市にコレラ患者發生するや數十萬人分のワクチンを供給し豫防注射を實施する等防疫方面に於ても醫療方面に於けると同様に著々實績を擧げてゐる次第である。

(9) 日語學校の開設

軍の要望に基き本府に於ては現職訓導八名を現地に派遣し今年一月廣東日語學校を開設し日常卑近なる用語並に初歩的會話の指導をなし日本語を通じて我國の興亞國策を周知せしめ親日思想の啓培に努めてゐる。同校の卒業生は既に數千名を算してゐる。

尙支那人小學校用日本語教科書は本府に於て既にその

編纂を完了した。

(10) 情報宣傳施設

軍で創刊した漢字紙「廣東迅報」は本府善隣協會に於てこれを繼承し最近邦文版「南支日報」をも添付發行し宣傳上多大の効果を收めてゐる。

尙本府では共榮會をして廣東に新華戲院を開設せしめ映畫供給を實施してゐる。又四月中旬より本府は廣東にラヂオ放送局を開設した。かやうに凡有角度より情報宣傳施設に協力してゐる次第である。

(11) 事務連絡職員の派遣

現地と本府との事務連絡の爲昨年十月二十八日加藤外務部長を派遣し十一月二日柴山事務官外二名を交代派遣したが其後も引續き交替的に職員を派遣し連絡に當らしめてゐる。

三、海南島

帝國陸海軍は本年二月中旬緊密なる協同作戰により海南島の敵前上陸に成功し日下全島の殘敵掃蕩治安の確保

に努めてゐる。今日迄本府の協力した事項は概ね左の如くである。

(1) 無線通信器材人員の送致

軍の要望に依り海口に於ける短波無線通信施設（海口廣東間並海口臺北間）を開設する爲之に必要な技術員並器材を送致した。

(2) 防疫診療班の派遣

現地三省連絡會議の要望により兼に南京鎮江等中支戰線に活動せしめた本府博愛會醫院職員を中心として海南島防疫診療班を編成し海口榆林に派遣して軍の衛生施設に協力せしめてゐる。

(3) 本島海南島間定期航路の開設

大阪商船メナド丸を四月一日臨時海口並三極へ廻航せしめ逐次定期航路の整備に當らしめてゐる。

(4) 金融機關の設置

三省連絡會議の要望により臺灣銀行をして海口に出張所を開設せしめ三月二十一日から不取敢軍票の交換及預金送金業務を開始せしめたが近く華僑並中小商業層金

融工作の爲華南銀行の支所を開設せしむべく準備中である。

(5) 事務連絡職員の派遣

現地に於ける事務連絡調整に當らしめる爲本年四月より事務官以下職員を派遣し事務所を開設して諸般の事務を處理せしめつゝある。

むすび

東亞新秩序建設の爲には我々は尙堅忍持久戮力協心以て天業を翼賛し奉らねばならぬことは謂ふ迄も無いが聖戰の南支進展に伴ひ帝國南門の鎖鑰たる本島の使命は益々加重されることになった。

本島の視野は一八〇度廻轉して南方に向つて展開したともいはれる。

我々はこの歴史的使命に順ひ儼安の甘夢を食ふことなく愈盡忠報國の誠を效すべき責務を感じる次第である。

(終)

陸軍省情報部發表

聖戰第二周年を迎ふ

陸軍歩兵中佐 柴野爲亥 知作詞

紙 恭 輔作曲

一、蒼鷺の天翔ける空

猛獅子の雄叫ぶ大地

黃塵の嵐は西へ

大陸は日に晴れわたり

新秩序月に延びゆく

偉なる哉、御蔭威の光。

二、顧みよ、轉戰萬里

幾山河、血潮に染めし

蒙疆の遙か北より

南溟の島の果まで

堂々の征旅は進む

旺なり、皇軍の威武。

三、遙か見よ、西歐の空

風荒れて和く日を知らず

建設は途尚遠し

疾く拂へ東亞の禍根

打ち建てん我等が亜細亞 あゝ聖戰第二周年



臺灣米穀移出管理に就て

米 穀 局

臺灣米穀移出管理事業は第七十四回帝國議會に提案せられて貴衆兩院に於て慎重審議の結果、原案通り無修正を以て協賛を得、愈々本年第二期作米より實施する運びとなつた。

本事業に伴ふ法令即ち臺灣米穀移出管理令及同施行規則、臺灣米穀移出管理特別會計法及同會計規則等は既に公布せられ、目下事業の實施に付て若々諸般の準備を進められて居るのであるが、本事業の中樞を爲すものとも云ふべき本年第二期作米の買入価格は、去る五月二十九日の第一回米穀移出管理委員會に於て審議決定せられ、翌三十日付を以て告示せられた次第である。

米穀移出管理の趣旨を一言にて申せば、臺灣産業の發達の現状並に我が國現下の經濟狀勢に鑑みて臺灣産業に

再檢討を加へ將來の健全なる發達に向つて新しいスタートを切らんとするものであつて、之に依つて臺灣に於ける各種重要産業の調和的發展と農家經濟の安定向上とを圖ると共に、積極的に土地生産力を擴充し、臺灣特有の農業資源の利用開發を徹底し、以て帝國全體經濟の一環として臺灣の負ふて居る産業的使命を達成したいと云ふのである。

言ふまでもなく米は國民の主要食糧であると共に、之が生産に従事する農民は我が國民の半を占めて居るが故に米の問題は我が國に於ける最も重要な政治經濟上の問題として、過去長きに亘つて朝野を擧げて之が解決に努力して來たのである。米穀政策の歴史を顧みるに、或る時代は米の不足に對應せんとし、或る時代は米の過剩

に對して苦心を拂つて來たのである。最近の我が國に於ける米穀供給状況を見るに供給過剰の情勢にあつたのであつて、之が對策として米穀統制法の強化、米穀自治管理法の實施等各般の統制上の施設を要するの已むなき事情にあつたのである。

臺灣に於ても之に順應する爲、米穀統制法の一部施行、米穀自治管理法の實施を爲すと共に産米の急増を抑制する爲に、水利施設又は改修の一切を禁止すると共に、苟くも米の増産を圖るが如き諸施設即ち土地改良等は一切中止する一方、代用作物の栽培奨励等凡ゆる方法を講じて來たのである。

然しながら之等の結果は單に米の増産を抑制するに止まらず、臺灣農業全體の發達を阻害するの結果を招來したのであつて、今日の如く資源の利用開發、生産力の擴充に邁進すべき秋に、現状のままに放任することは大なる矛盾と云はねばならない。

今之を米にのみ就て考へて見ても、我が國主要食糧として、絶えず之が改良を圖り、増産の根幹を培養確保し

て常に情勢の變化に對應し得る様備へ置くことは、食糧國策の上から緊要なることは云ふ迄もないことである。今日我が國は東亞新秩序建設の爲に暴支膺懲の戦を起し、之が貫徹に向つて一路邁進しつゝあるが、今日食糧に何等の不安を感じないと云ふことは非常な強味であつて、何時でも情勢に應じて米の増産を爲し得る様備へを爲して置くことは戦時食糧政策の上から見ても極めて重要なことと云はねばならぬ。

又翻つて臺灣の持つ特質及使命に思を致すときは各種有用作物即ち甘蔗、甘藷、棉、黄麻、苧麻、苧麻等を出來る丈増産して、國內資源の需給の圓滑を計り、國際收支の改善に貢献することは最も緊要なことである。即ち行き詰つて居る臺灣産業の現状を打破し、現在禁止又は中止の状態にある水利施設、土地改良等の生産力擴充の施設は、今後どしどし實行に移すと同時に、米は内外地の需給に照して臺灣に於て生産を必要とする量の生産を確保し、其の餘力を以て他の有用作物の増産を奨励して、米、甘蔗、其の他の有用作物の調和的發展を企圖せ

んとするのが本事業の第一の目的である。往々本事業は米の減産を企圖するに非ずやとの考へを持つて居る向もあるが、之は全く本事業の趣旨を諒解せざるものであつて、前述の通り決して米の減産を企圖するものでなく、又減産を來すが如き虞は斷じてないのである。本事業は元々内外地一體の下に帝國米穀政策の圓滑なる遂行に協力せんとするものであつて、此の點從來の米穀政策に一步を進めて、内地に協力貢獻せんとするものである。

次に本事業の第二の目的とする所は農家經濟の安定向上と島民の恒久的福利の増進である。内地に於ける米穀の統制施設の結果は所謂高米價政策に傾き、米價は相當高い處に安定したのであるが、其の結果は臺灣の米價を非常に有利に導いたのである。之が爲臺灣の農業經營は、益々米作に偏重單一化する傾向を辿り、之を放任するときは將來農業經營を不健全ならしめ、其の經營方法は温室的保護の下に一時の安易を貪ることとなり、一度反動があつた場合は、其の影響するところ測り知れざるものがあるから、今日農村の經濟上多少餘裕ある時代に農

業經營の基礎を堅固ならしめ、將來の健全なる發達に向つて進み得る様工作を講ずるの必要がある。即ち米作の外に各種作物を合理的に組み合せて、經營を多角化、集約化する方法を講ずると共に、米價安定の方策を併せ講じ、從來餘り生産的に利用せられずに消費せられて居る處の農業收益の一部を生産的に轉換せしむることとし、之を農業の利用開發に充當するならば、茲に農家經濟は愈々安定向上すると共に、島民永遠の福利を増進するものと信するのである。

次に第三の目的は臺灣産業の國家的使命の達成である。臺灣は熱帶圈内に位して居るので、之が開發如何は國內物資の需給調節は固より、國際收支の改善に資する所大であつて、殊に現在の時局に鑑み、益々此の必要を痛感するのである。従つて米作と共に臺灣に於て栽培することを得策とする各種有用作物の増産を圖ることは、臺灣産業に課せられたる國家的使命を達成する所以なりと云はねばならない。

以上述べたる目的達成の爲に、茲に内外地の需給推算

に即應したる米穀政策を樹立し、之と併行して一方に於ては糖業令に依り糖業政策をも確立し、米糖を輻軸として各種産業の調和的發達を促し、一面生産力擴充の徹底的施設を講ぜんとする方針を樹てた次第である。

以上は臺灣米の移出管理の目的、趣旨の概要であるが、管理事業の内容に付其の概要を述べ参考に供し度いと思ふ。

第一に先づ米の生産に當りては、我が國食糧問題の重要性に鑑みて國內全般の需給の圓滑を期する爲に總督府に於ては農林省と協議して内外地を通ずる需給推算に基き一定年次の生産目標を樹て、之に基いて生産を爲すのである。従來の米穀政策はどちらかと云へば、出来上りたる米の需給に付て、其の圓滑を圖ることを基調として居つたのであるが、今後は更に一段階を加へ、米の生産に付ても内外地一體となつて進むこととなるのであるから、米穀政策の上より見れば一歩前進したものと云はねばならぬ。之に依り平時は勿論のこと戰時食糧問題に對應しても、充分遺憾なきを期し得る譯である。

第二には臺灣より移出せらるべき米は總て總督府にて買上げ之を移出するのである。而して此の移出せらるべき米は、農林省に委託し、同省は更に日本米穀株式會社に再委託し、同會社の手を経て内地市場に販賣せられるのである。

第三は米の移出に當りては、一定の移出計劃を樹て、移出するのであつて、移出に計劃性を與へると共に、又其の販賣は前述の如く農林省を通じて日本米穀株式會社をして販賣せしむるのであるから、内地の米穀政策の一元化に副ひ、米の需給並に配給の圓滑を期することとなり、内地の米穀政策に貢獻すること極めて大なるものがある。本事業を通じて長らく要望せられて居つた内外地一體の米穀政策の建設に、臺灣が先鞭をつけて、積極的に協力貢獻することとなつたことは眞に邦家の爲に喜びに堪へない所である。

第四に米の買入価格は作付前に發表することである。この買入価格は生産費、物價其の他の經濟事情を參照して、適正なる米價たらしめ之に依つて農家經濟を安定せ

しめ且つ各種有用作物の調和的増産を圖らんとするのである。

此處で注意を喚起したいことは従來の自由經濟に於ては、經濟界の變動に伴つて米價が生産費を割ることも往々あつたのであるが、米穀移出管理實施後は生産費は常に補償せらるると云ふことである。即ち如何なる場合に於ても、政府は生産費又は生産費以上を以て買上げる譯であるから、此の點は農家經濟の安定を期する上に於て極めて重要な意義を有するものと云はねばならぬ。

第五は賣渡價格と買入價格との差額から生じた剩餘金の處分であるが、之は所要の經費を控除した剩餘金の一部は、將來豫想せらるべき損失の補填即ち米穀事情に因り米價が著しく下落して、生産費以下になつた場合でも、少くとも生産費を補償する爲の備荒的積立として之を保存することとし、他は總て之を島内に還元して、農業の調整開發及助長の經費に充て度いと思ふのである。

本事業が従來の專賣事業と全く其の趣を異にし、單に収益を擧げることを目的とするものでなく、一つの産業

政策として、臺灣産業の調期的發展を招來せんが爲に行ふのであることを銘記して戴き度いのである。本事業の剩餘金を島内に還元して農業の調整開發及助長の經費に充てることは單に總督府の方針ではなく、制度として臺灣米穀移出管理特別會計法の上に於て規定せられて居るのである。此の意味に於て本事業は帝國に於て未だ付てなき全く新しき滋養ある制度であると確信するのである。

次に本事業の剩餘金を以て行はんとする事業の主要を述べれば左の通りである。

第一は土地改良、干拓事業、開墾助成事業等の基本的施設である。前述の如く、現在の臺灣は、之等の事業を中止して居るのであるが、今後十年間に約十數萬甲に涉つて、之等の施設を講せんと企圖して居るのであつて、之に依る土地生産力の増進は極めて大なる見込である。

第二は施肥標準調査である。施肥は近來量的に相當進んで來て居るが、施肥の方法は未だ尙幼稚であつて適地適作適肥の調査を遂げて、合理的施肥を行ふならば、尙

立體的の増收を計り得る餘地は相當に多い實情である。依つて今後五箇年計劃を以て、全島に涉り詳細なる施肥標準調査を實施して、施肥指導の基礎を確立せんとする次第である。

第三は海岸林及耕地防風林の造成である。臺灣は季節風の被害を受けることが大きくその面積も約五十數萬甲に上ると云はれて居る。若し完全なる海岸林及耕地防風林を造成して、現在失はれつゝある處の收益を回收する事が出来れば、農産増殖は固より、農家經濟に貢獻する處亦非常に大なるものある見込である。

右に述べた事業の外に、今後事業の剩餘金を以て各種

作物の試験設備の擴充、有用作物の助長獎勵、農業經營の指導徹底等の施設を積極的に行ひ、以て農家經濟の向上に資すると共に、臺灣特有の農業資源の利用開發に遺憾なきを期せんとする次第である。

以上本事業の趣旨及概要を述べたのであるが、之を要するに臺灣産業の現狀に一大轉換を與へ、翻やかき明日の産業臺灣の建設と、島民の恒久的福利の増進に向つて邁進し、以て我が臺灣の帝國に負ふ處の産業的使命を達成することこそ、本事業の目的目標とするところであつて大方の理解と協力とに依つて所期の目的を達成せんことを切望するものである。



汕頭攻略の意義

臨時情報部

一端に目を注ぎ新戰場汕頭に燃けつくやうな興味と皇軍への新なる感謝に湧き立つた、抑汕頭とはどんな處であらうか。

天津、厦門の租界を中心に國際問題紛糾し帝國がこれに對し斷乎たる處置を執るに至り全世界の視聽はその成行に凝集され緊張してゐる折柄、六月二十一日拂曉忽然突風の如く我が陸海の精銳は汕頭の無血上陸に花々しく成功した。

斯くして最近對外聯絡路として活氣を呈し且つ支那内部並に南洋華僑に對する策謀の妖氣を備へた潮汕の要衝を攻略し我が制壓下に置いた事は皇軍の威力を中外に示し今次事變の將來に一大進展を見たわけである。

汕頭攻略の快報一度傳はるや全國民は再び大陸南支の

沿革 汕頭は廣東省潮州府澄海縣下の開港場で、往昔は名もない一漁村に過ぎなかつたが十九世紀の中頃英人が港外の南澳島で次で港口で阿片貿易に従事し有名な廣東のアロー號事件起るや千八百五十八年南京條約に依つて遂に開港場として開かれ千八百六十年英國は領事館を對岸角石に設置した。同地は韓江の水運を利用し福建、江西、東南部、廣東の肥沃なるヒンターランドを擁し港内水深く波靜かな良港であるので市街は逐年發達し今や人口二十萬を算し碼頭設備は整備し、六、七千噸級船舶の入港に支障なく新都市計劃に基いて市街はその面目を一新した。

官衙 同市の行政は元澄海縣の管理であつたが民國十年(大正十年)三月獨立市政を施行し直接省政府に屬する行政區域となつた。市政府公安局、綏靖公署、廣東高等

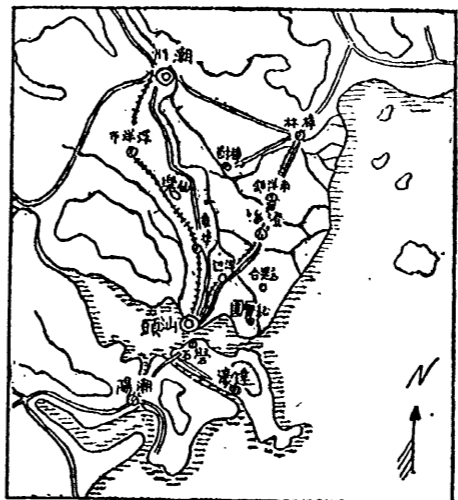
法院汕頭分院、地方法院、潮橋鹽務監督局、農產稅局印花稅局、海關及び監督官、市商會市黨部等の主要官衙がある。

在留邦人 明治三十七年三五公司潮汕鐵路敷設工事請負當時から逐次渡航し同年厦門領事館の分館が設備され明治四十年獨立の領事館が設けられた。逐年増加し七千餘名を算するに至つたが悪質なる排日のため事變引揚前は在留邦人七百名で大多數は本島人であつた。然し尙全在留外人の七三%を示してゐた。

在留外人 多くは對岸の達濠島の角石側に居り汕頭の事務所に通つてゐる達濠島は全山悉く岩石に蔽はれ所々

斷崖を爲し角石南側高地は汕頭市附近を俯瞰し景勝の地である。

金融機關 廣東省銀行、中央銀行、中國銀行、工商銀行等の支那銀行を始め我が臺灣銀行の支店もあり、又爲



替取引所として滙兌公會あり加盟銀莊約四十を有し、此處で汕頭各地向け標準爲替相場が決定され主として香港上海向け爲替の賣買が行はれてゐる。

貿易 主要輸出品としてレーズ、柑橘、砂糖、紙、果物、蔬菜等。

主要輸入品として肥料、石油、綿布、米、土糧物油、生油、土錦紗、土布、煙草等。

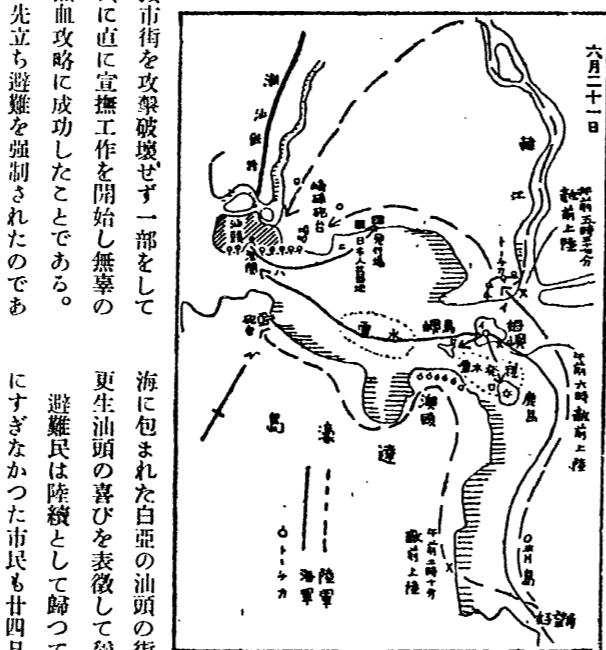
交通 潮汕鐵路、其他市内外バスあり通信は市政府管理の市内電話に依り水道電燈等は總て民營である。

列國權益 列國は英、米、佛、獨、伊、オランダ、ノ

ールエー各國とも領事館を置いてゐるが租界はなく歐米人は主として角石に居住してゐる。其他列國の商社は臺灣銀行、大阪商船、幸阪洋行、萬源洋行、怡和洋行、太古洋行、亞細亞石油、德記洋行、スタンダード石油會社其他等である。

三

今次汕頭作戦の特徴と見るべきは精銳大部隊を擁し武力を以て一舉にこれを占領することとは實に容易な情勢にあるにも拘らず攻撃軍の主力は汕頭周圍の要地に態勢を整へつゝ直接市街を攻撃破壊せず一部をして殘敵を掃蕩せしめると共に直に宣撫工作を開始し無辜の民に何等損傷を與へず無血攻略に成功したることである。



つたが我が海の荒鷲が撒布した「民衆よ安心せよ、日本軍は民衆の生命財産を保障す」の傳單を見て安心して早くも皇軍を信頼し或る者は右傳單を携へて逸早く皇軍を歓迎し第一線と共に入城し我が宣撫班に協力してゐる。

皇軍入城の翌二十二日には早くも有力者にして人望ある陳覺民氏を會長とする治安維持會は誕生し更生汕頭の建設に雄々しく第一聲明を發すると共に目覺しく活動を開始した。

眼覺めるばかり鮮かな相思樹並木の緑と紺碧の海に包まれた白亜の汕頭の街の空には日の丸と五色旗が更生汕頭の喜びを表徴して續つてゐる。

避難民は陸續として歸つて来る。皇軍入城直後は一萬にすぎなかつた市民も廿四日には五萬に増加した。

街々には人力車が走り床屋も煙草屋も開業しメンスト
リートの家々もまるで悪夢から覺めたやうに一軒々々
と、「ショウウィンド」を開け「軍票本位交易」の貼紙が彼
等の生活を保障するかのやうに貼出され、希望に満ちた
商業振はもうすつかり原状に返つてこれが昨今占領せら
れた街かと思はれる程である。

又一方街の各所に處狭きまでに書きなぐられた抗日壁
字を復歸した市民の青年達が三三五五ペンキで塗潰して
行くその一刷毎に抗日反日の文字は拭はれて新しい親日
標語が書かれ油頭の衣替へが急速に行はれて行くのは微
笑しい風景である。

今や平和の明朗さは隔々にまでに漲り溢れ戦火の不安
も民心の動搖も微塵だに見受けられない。

廿四日市民大會在至平戲院に開催された。會する者無
慮數千異口同音に皇軍を迎へた喜びと飽くなき軍閥の誅
求から解放された歡喜に充ち溢れ新生油頭建設を絶叫し
た。

會では黨軍機關紙として抗日宣傳に没頭してゐた星華

日報、油報、嶺東民報等の油頭市の言論機關も皇軍
の嚴律と民衆に對する温情とに感じ俄かに親日反蔣宣傳
の着手を中出た。又市内八個所の常設映畫館も抗日フィ
ルムを皇軍に提出し新東亞建設フィルム提供斡旋方を
熱望する等超スピード振りを各所に展開してゐる。

今や東亞の陽光を浴びて油頭は清新な更生の息吹きが
漲り渡つてゐる。

四

然しこれが往昔排日抗日の舊怨に埋められた油頭かと
思ふ時餘りに超スピード的な更生振に轉々感慨無量なる
ものがある。

油頭攻略は純作戦の見地から見ればむしろ渺たる一地
點の占領に過ぎないのであり敵軍に與へた損害は軍事的
打撃の點に於ては論ずる程のものでもない。然し支那事
變が國家總力と國家總力との死生の激闘に展開した今日
この一海港の占領こそ實に長期體制下の支那軍の經濟的
な生命力、従つて又政治的抗戰力に致命的な一石を投じ

たものとして重大なる意義がある。
即ち陸軍報道長談として今次作戦が及ぼす影響とし發
表せられた所にあるが如く。

對外貿易閉塞 油頭は天津、青島、上海、漢口、廣
東が事變以來次々に我が手に歸した今日に於て事變前
の六大商港中の僅かに残された唯一のものとして蔣政
權の對外重要輸血路中の一聯の路線の中にあつて俄然
その重要性を加へた。

廣東攻略後の三箇月間に於て蔣政權下にある油頭、
拱北、雷州、福州、北海、寧波、温州等の海港中に於
て油頭の對外貿易額は全海港輸出入額の三十八%を占
め斷然第一位を占めて他港を壓してゐた。即ち當時油
頭の輸出入額は一六、五〇八、〇〇元であつて第二位の
拱北は僅かに六、〇二二元である。しかも南昌の陥落に
依つて浙贛線を経由して温州、寧波の諸港に輸送され
るルートが遮斷されるに至つて油頭が敗殘蔣政權の經
濟的軍事的基礎を貽ふ價値は更に向上してゐた。今油
頭の喪失は蔣政權抗戰繼續に對し致命傷である。

南支制海權の確立 南支那海の要地の占領によつて

制海權は確保されてゐたが對外的の空輪奸商の跋扈未
だ後を斷たなかつたが油頭の攻略によつて南支那海岸
の要衝を完全に扼守し海上の封鎖はいよいよ完全に我
が手中に握られた。

制空權の擴張 本攻略によつて南支那海沿岸の制空
權を確實に獲得し得たのみならず臺灣、廣東ルートも
極めて安全となつた。從來の航路は兩端においてのみ
氣象を観測して就航してゐたため途中より反轉歸航す
ること屢々であり不時着陸を思ふ時寒心に堪へ難きも
のがあつたが臺灣廣東の中間たる油頭附近に航空據點
を獲得したことは南支に於ける制空上偉大な價値を有
するものである。

蔣政權と南洋華僑の絶縁 政治的には南洋華僑に與
へる深刻なる影響である。

油頭附近は厦門、泉州、廣東、海南島と共に南洋華
僑の主要なる出身地であり、油頭附近出身者のみで約
二百四十萬に上り第一位でそのうち二百十數萬はシヤ

ムにあり、汕頭を通ずる本國送金は一九三六年に於て約五千萬元であつて抗戦力培養に重要な關係をもつてゐるが、汕頭の占領は援蔣資金ルートの遮断を意味し輸出貿易の閉塞と共に抗戦の枯渴に拍車をかけることになり、又華僑の墳墓を敬仰し愛郷心の旺盛なるよりして抗日ルート一轉して親日南支の重要設割を演ずるとともに南洋華僑に蔣政權の敗北感を深刻にし援蔣を断念せしむることは言を俟たないことである。

鹽飢饉の増大 汕頭の東部地方は有数の鹽の産地であるが、二月海南島攻略、三月海州攻略以來蔣政權下一般の鹽飢饉に更に拍車をかけることになり江西、湖南地方人民の長期抗戦に對する呪詛の聲は益々たかまゝることであらう。

斷呼として南支に伸びた蕭正の巨腕、汕頭攻略への歡喜は我が臺灣なる故には一段と深且切なるものがある。

由來汕頭の地は臺灣と一衣帯水の地に在り、且つ本島廣東族の發祥の地であり古來より密接な關係を有して居

つたが一般には當地が廣東省の東隣に位し、又惡質なる排日、抗日の爲邦人の進出に支障を歸す等よりして等閑に附せられ勝ちであつたが將來に於ける經濟的發展は活口に價するものがあるであらう。

要するに本作戦は臺灣として「對岸の蕭正の徹底であり南支としては「重ねての黎明來である」

我が臺灣の大使命が明るく南支への協力にあるところに重大意義が存するのである。



三民主義と支那民衆思想

臨時情報部

一、はしがき

我が近衛前首相の聲明には「我が日本の眞に希望する所のは支那の滅亡に非ずして支那の興隆にあるのであります。支那の征服に非ずして支那との協力にあるのであります。……實に支那の民族的情熱を認識し支那の獨立國家としての完成を必要とすることに於て日本程切實なるものはないのであります。……と説いたのは非常に支那人に好い印象を與へた。

支那の青年にして文字を知るものは殆ど三民主義を讀まないものなき由、この主義の内に救國の光明を認め、これに強い熱情を寄せたが、悲しいことには國內統一手段としてのこの三民主義に基く抗日教育に關りたてられソ聯の極東政策としての共產主義の脈動の上に躍らされ

で、遂に今次事變を惹起する原因となつた。

今や東亞新秩序の黎明下に支那民衆も漸くその非を悟り始めてゐる。

支那民衆は何處へ行かんとするのであるか。後等の生れ、育ち、さうしてやがては死して行くべきこの東亞の地域を見直す以外に道はない。こゝに東亞の地域に於ける新秩序が東亞の民族によつてのみ再建せらるべき運命的な契機が横はつてゐる。

われわれは彼等の胸の奥に眠れる東亞民族の意識の覺醒を促しつゝ、李健昇の言葉「三民主義と支那民衆思想」を眺めようとするものである。

二、統一したる思想の成立まで

古來より支那の思想を支配するものは、所謂「士大夫」

の階級に於ては儒教、中流以下の階級に於ては佛教又は道教であつた、就中儒教は儼然たる正統的地位を占めて居つた、此等の一貫したる思想は數千年來朝代の變遷に拘はらず時に各教の消長はありたるも依然として確乎たる支配力を以て後世まで綿々として傳へられて來たものであつた。鎖國時代に於ける支那人は自分だけ斯る高尚なる思想、光榮ある文化を持つて居ると考へ、自分乍ら陶醉して來たのであつた。

歐洲の武力及びその物質文明が東洋へ襲來した時支那人は瞠若として手足の措く所を知らなかつた、始めて自分の人に及ばない所があると悟つたが、それでも物質文明は外國に及ばないが精神文明は我が國が外國に比して遙かに優秀であると考へ、そこに「中學爲體西學爲用」と云ふ折衷的な主義を標榜した。

處が歐洲の思想及びその物質文明は遠慮會釋もなく猛烈に襲つて來て之を阻止するには何うすることも出来なかつた。殊に清朝末年の頃革命の思想及び自由平等の説は一時に高潮して來た其結果として極めて薄弱なる武力

を以て清朝を顛覆した、民國成立以後支那人は革命の成功に陶醉し乍ら西洋より輸入したものは何でも丸の儘呑込み、固有のものは一切顧みず遂に綱紀の廢弛道徳の衰頹となつて收拾すべからざる戦亂の局面を演出した。此戦亂は二十餘年の今日まで續けられた此の二十餘年中は支那に取つては實に堪へ難い期間であつた。思想の中心は全く失はれ極度の苦悶に陥つた孔子の道は帝王思想であると吐棄され、人倫の徳は平凡過ぎると排撃された。

佛教は迷信であり、道教は渺茫であるとなし極力之を破壊した。然し外來の自由平等の説、個人主義等は又悪用され色々な弊害が之に伴つて生じて來た。加ふるに外國より取入れた一切の制度例へば議會、司法、軍制等の如きは一度支那へ渡つて來れば直ちに變質して仕舞つた結局西洋思想より造り出した此等の制度は支那には適應しないであらうと又懷疑し始めた、此の様な色々の煩悶焦燥の中から無政府主義を唱へる人もあれば、社會主義を提唱する人もあつた。共產主義も民主主義も産業革命の物質主義も東洋固有思想復興の説も君主政體歸復の主張

も一時に雜然として發生した中には又眞面目に西洋の思想文化を研究する人もあり、日本の明治維新により隆盛の原因を検討する人もあつたが、併しどちらにしてもこれぞと云ふ支那に相應する様な道を發見する事が出来なかつたので唯焦燥するのみで益々思想の混亂を生じた。何とか一つの思想中心を求め得れば思想の統一も出来るであらう。それによつて政治上の統一も早く實現し得るであらうと懸命にもがく一方軍閥の割據内亂の連續、外國の勢力等は同時に交錯して迫つて來て舉國徬徨として益々支那の行くべき道を發見し得なかつた斯の如き條件の下に三民主義がこの機運に乗じて生じて來た。支那の知識階級及び青年の一部にはこれこそ自分達の求めて居る所のものであつたと叫びつゝ歡迎した。軍閥並に外國の壓迫に對して極度な嫌惡を抱いて居つた人々は之に同情した。爾來十有餘年三民主義はその武力と共に南支の一角より支那大陸の全部に風靡し、遂に支那の確乎たる統一的思想として成立した。三民主義成立してから後と雖も支那には幾度の内亂も起つた、がその論争の範圍は

三民主義に超越することが出来なかつた。又如何なる横暴な軍閥でも三民主義だけは否定する勇氣がなかつた。

三、三民主義の本質

三民主義は孫文が亞米利加の「リンカン」の Government of the people, by the people, for the people を民有、民治、民享と譯して人民を土臺として政治を行ふと云ふ根本思想から割り出して民族、民權、民生と云ふ三章に區分した理論である。其の内容に就て概略的に云へば民族は各民族の平等、條約の改正による國家平等の回復を強調したものである。民權には治權と政權とを二つに分け治權は從來外國の立法、司法、行政の三權の外に新たに監察權と考試權とを付け加へたのである。政權には直接選舉の全民政治を主張し、選舉、複決、創立、罷免の四權を人民より直接行使しなければならぬと論じたものである。民生は人民の生活と解釋して民生に充裕するには「平均地權」及び「節制資本」の二政策によつて達成し得ると闡明した最後にはこの三民主義の實現によ

つて支那古代の思想たる「大同主義」をも達成し得と云つて「天下爲公」と云ふ古語を引用して標榜した此の三民主義をよく検討して見れば別に高遠な理論もなければ神秘的な奥義もない極めて平凡なものである。然し平凡であることこそ大衆にも理解され易く直ちに普及し得るのである。例へば民族主義に論述した所の民族平等、國家地位の平等等の如きは支那人として有り得べき考であつて苟くも稍々知識を有する支那人は斯る思想を懐かない人はないのである。民権主義の治權に就ては古代支那の遺制たる「科擧」を倣つて考試制度を造つた、これは外國の行政權より分離したもので、要するに高等文官試験に類するものである。此外又監察權がある。これは古代の「御史」又は袁世凱時代の「肅政史」を倣つたもので官吏の違法に對する監察、檢査を執行して司法範圍より分離獨立するものである。政權に就ては「スミス」の選舉制度の模倣したものであると評論されて居る。民生主義の「平均地權」は獨乙の青島に施行した土地増差税より考へ出して議論であつたと思ふ。「節制資本」とは支那將來の産業發

達に於ける勞資の闘争及び資本家の横暴を豫防するため獨占的性質を有する産業は政府の手によつて直接經營されると云ふ一種の社會政策とも見做されるものである。

四、三民主義の民衆に及ぼす影響

凡ての思想又は主義は必ずその發生した時の背景となる關係を有するものである。三民主義もこの例に洩れず民國成立以來支那は内亂に惱まれ、思想の行詰りに煩され歐戰後の民族自決に影響され華府會議、國際共管、殖民地化された現象等に刺戟され内憂外患の旋渦に追ひ込まれた苦境であつた支那人の考としては内に於て國を統一し徐々に政治の向上を謀り外に對して國際間人並みの國になつて支那人は國際間に於ても賤視されない位な欲望を熱烈に懐いて居つた斯る背景の下に三民主義が發表され、丁度支那人の最も欲求して居る所であつた三民主義殊にその民族の一章は支那人にピンと來るやうな非常な魅力を感じて居つた支那人から見れば我々の云はんとする所を云つてくれたと叫ぶ位であつた。北伐當時僅か

な兵力を以て廣東より揚子江流域まで容易に進出したのは中部支那の三民主義に對する同情並に三民主義信徒が軍事より先立ち滑入したからである。又一般民衆の三民主義に對する態度に就ては彼等が民権、民生は將來に於ける遠大なる問題であるから實行の出來るか、否かは未知に屬するものと考へられ、大した關心を持つて居なかつたが民族の一章だけは皆等しく相當な注意を拂つて居る。其後國民黨は又三民主義の古代道徳に關する部分例へば忠孝、仁愛、信義、和平の如きを大いに宣傳した之によつて平生三民主義に反對する舊思想を持つて居る人々も三民主義の同情者となつた、爾後國民黨の武力の進展國民政府基礎の確立に従ひ「以黨治國」を標榜して國家統治に當り黨勢力の及ぶ所、政治と云はず教育と云はず社會と云はず完全に黨化せねばじまぬ主義を取り如何なる機關、如何なる團體も三民主義に依つて動かなければならぬ様になり、支那人にしてこの主義を信仰しなければ支那人に非ずと云はれる位で如何なる人でも之に正面反對することが出來なかつた三民主義は全く宗教

化され、聖書化され、絶對に批評を許さない無條件的な指導勢力を有するのである。今は所謂「十年教養」の効果を收め上から下まで民衆の全體に染み込んだのである。加ふるに近年の新建設に於ける成績新生活運動に對する努力は尙更側面より三民主義の勢力を助成したのである。

五、三民主義に關する解釋

三民主義を發表した時は正に容共政策を採用した時であつて孫文はそれに氣兼ねし乍ら「三民主義は即ち共產主義である」と脱線し圖らずも孫文死後に於て之れが國民黨内紛争の中心點となつた、第三黨一派の解釋によると三民主義は共產主義と同一視されたのであるが改組派の解釋を見れば三民主義をして著しく共產主義化せしめたのである。右派の胡漢民一派の解釋には三民主義と共產主義とは全く別個的なものであると主張した理由によつて見れば共產主義は物質を以て中心とするが三民主義は民生を以て中心とするものである。民生は物質的の限りに非ず従つて兩者は根本的の相違がある。三民主義は

資本の節制を主張したが私有財産制度を否定するに非ず、「平均地権」より案出された耕者は自らその田を有すべし」と云ふことを見れば土地の私人占有を許すことは疑もないことであると論じた其後國共の分裂並に共産黨の討伐の關係により右派の勢力も漸次に増加したからこの説は殆んど支那の定論となつたのである。

此の民生主義に就ての論争は國民黨内の分裂を誘致する虞があるから國民黨としては出来る限りこの問題に觸れ度くないので黨内の注意を民族主義の方へ集中せしめるやうに努めた第二次代表大會宣言を見れば之を推測し得るものである。

又三民主義を通じて見れば民族の一章は理論に於ても文筆に於ても相當な上達であるが民権に至れば稍々論調の紊亂を生じて來た民生主義の一章には矛盾混亂の所を隨所に發見することが出来る。元より之れは當時廣東大學學生に對する講演の原稿であつて時間の關係上充分整理することも出来なかつたのであらう。又民権、民生に關する所では相當な學理的的研究を要するから民族一章の

論じた所より餘程難しい點があるからであらう。

六、三民主義に代替する信念

三民主義の勢力は既に一般民衆に根強く喰入つたので之れに代替し得る思想は俄かに發見すること困難であらう。勿論思想は相當長い歴史を要するが民衆の要望に相應するやうな條件がなければならぬ速成急造なものも不可であると同時に無理に注入する譯にも行かない、民衆に理解され必要と認められて始めて信念を生ずるものである。現在北支新民會の採つた東洋古來の政治、道徳、文化精神は要するに修、齊、治、平、及び人倫の道であつて之を支那人から見れば一種の骨董に過ぎない。今日の支那人の云ふには國があつてから家があり、身があるが國がなければ家を齊へ身を修めても奴隸的生活に等しいのである支那の古道徳は三民主義の中にも含まれて居る人倫の道は我々の日常實行して居る事であるから今更改めて提唱する必要もないと云ふのである。然らば日本精神を支那に吹き込めようとする主張すれば如何なる結果

を來すであらうか、日本精神は日本民族間に生れたものであり支那へ持つて行つても行はるべきものに非ずと思ふ、其の他の日支提携主義、東洋協同主義、東亞集體主義等は主に經濟方面に傾く嫌もあるが支那人から見れば之れは結局日本人の都合主義であつて之れを實行すれば支那は損の立場に置かれるものである。兎に角今の所では固有思想の復興は支那人の思想を擁護力が甚だ脆弱な憾があるが日本からの指導精神は支那人の頭には感受性が少いやうである、この儘に放任して置けば又種々な弊害も之に伴つて發生するから誠に困つた問題である、或る者は衣食、住、平和さへ支那人に與へれば自然に治まると云ふが之れは解決すべき問題を將來に貽すに過ぎない、蓋し衣、食、住の欲望を満足し得れば精神的な欲望も生じて來るからである。要するに現在の支那人は何を欲するか、支那人の必要とするものは何であるか、之を注意しなければならぬと思ふ。近衛首相の聲明は非常に支那人に好い印象を與へた。それは實に支那人の必要とする所のものを與へる約束であつたが支那人は未だ釋然

としない所がある。近衛首相の言葉は果して眞實の心から出たものであるや否やを疑懼して居るのである。

七、三民主義は存続すべきや

三民主義は民國十一年、二年頃一度方向を轉換した孫文の死後蔣介石は又その方向を轉換して極端なる民族主義極端なる國家主義として發展した民権も民生も拋棄して仕舞つて國權回復の一點に全力を傾倒して遂に日本に鋒先を集中した。それは党内分裂を防ぐため黨員の注意を民族主義に集中せしめ自分の地位を鞏固にするため國內の統一を謀るために外交問題を利用したものと見られる、三民主義は排日、抗日の方面から見れば誠に有害無益なものであるが、併し三民主義の民族平等國家獨立の方面から見れば支那として又當然有り得べき要求である。只それが悪用された結果遂に今日の事變となつたのは遺憾である。

併し今後この三民主義を撲滅すべきものであるか又は之を存続せしむべきか相當困難な問題である三民主義を

消滅せしめるには先づ之に代替する思想を必要とする。同時に支那人の頭から完全に跡形もなくする迄は少くとも三十年かゝるであらう。此の三十年の間入り替りの思想が確立することが出来なければ日支兩國に取つても苦勞しなければならぬ。萬一この期間中に意外の事件でも起れば三民主義が又之に乗じて擡頭しないとも限らない。今の支那人の考としては國民政府が西藏の奥まで逃げ込んで僅かな形式を保つても存在した方が好いと思つて此の遠方の影の薄い存在は三民主義に通じて支那國民と一脈の以心傳心の連絡を保持し得さへすれば好いと考へて居る。これは恰も天國と地上の信徒との關係に似て居るものである。それ故に今後支那に於ける日本の軍事上、政治上、思想上の各方面に非常な努力を要求する苦である。それよりも日支相互のために一日も早くこの事變を片付けた方が有利ではなからうか、この事變の結末を早くつける手段としては支那人の欲するものを差し聞へない程度で與へれば事理に於ても情勢に於ても順當ではなからうかと思ふ。支那人の欲するものは國家の獨立

動を阻止するのは合理的とは云へないであらう。寧ろ支那の民族平等國家獨立は日支共存共榮の意義に於て東洋一體の前提にもなるではなからうかと思ふ。近衛首相の聲明した通り日本が支那を征服しようとするものでない。以上何故支那人の必要と認めるものを與へないであらうか、支那人の欲する所のものを與へてそれから之を實現せしむる爲に日本から手を貸してやると云ふ事が今後の工作ではなからうか、三民主義は支那人の崇拜する孫文により創作され、其實現が支那人の皆で憎悪した日本人の手によつて完成されると云ふことは支那人の夢にも思はなかつたことであらう。又支那人は心から日本に感謝しなければならぬのであらう。支那は弱國であるから不斷でも相當に僻んで居るから今度の戦敗によつて尙ほ一層強く僻むのである、その欲する物を與へても受取らないと云はないとも限らないからこれに就て充分注意しなければならぬと思ふ。

八、三民主義の修正

三四
民族の平等であつて、この目的を實現するには三民主義は必要と認めて居るのである。支那人からこの三民主義を取り上げられないと云ふことはつまり支那の民族平等國家獨立を承認した證據である。歸する所日本は三民主義を悪用して蔣政權を敵として三民主義そのもの又は三民主義を信仰する支那人を敵とするに非ずと云ふことを聲明すれば支那人も成る程と首肯して自分から折れて來るであらう、これは國民黨の團結力を弱める一策ともなり理に於ては日本が堂々として支那を援助するの眞意を示す正義にもなるのである。

本來民族又は國家は夫々その自主性又は獨立を有するので之を否定することは出来ない。又之れを理解しなければならぬ支那に於ける民族主義の擡頭は事變以前の事であり、日本を對象として發生したものに非ず、その内的な必然性を有して居る。これは即ち支那の近代國家への進展に伴ふものである。従つて歴史的必然性を持つて居る國權の回復平等條約の改廢は日本にも苦い経験があつた。支那に於けるこの種の思想を否定してこの種の運

孫文の思想は三民主義のみに表はしたのではない。三民主義の他に建國方略、建國大綱、孫文學說、孫文演說集、及び孫文遺囑によつて表はしたものである。孫文の生前には日本を指定して排撃せよと國民黨員又は支那人に命じたことはないのみならず神戸の歡迎會に於ける演説は寧ろ大亞細亞主義を提唱した孫文の死後別に日本を排撃せよと遺言を残したのではない。唯「世界上下等を以て我れに對する民族を聯合して共同に奮闘せよ」と云ひ遺しただけである。平等を以て我れに對する民族と云ふ民族は別に露西亞民族と解釋しなくとも日本民族と解釋しても好い譯である。孫文臨終の時「和平、奮闘、救中國」と叫んだ和平であれば支那を救ひ得ると云ふ意味であつて、この和平とは支那の對内的な和平だけでは、對外的にも和平を主張したと思ふ支那人の間に孫文さへ生きて居れば今度の戦争は決して起らないと今でも云つて居る人が少なくない。孫文の死後、蔣氏一派が自分の利害のため權勢擁護のために自分の都合の好いやうに解釋を敷衍してその結果、今日の支那國情の最悪

